

社会共創学部

本学部には、産業マネジメント学科、産業イノベーション学科、環境デザイン学科、地域資源マネジメント学科の4学科があります。これらの学科では、高等学校までの文系・理系に分かれた学びではなく、学部内の各学科が展開するカリキュラムを通じて、文系・理系の両方から社会共創の基礎となる知識や理論を学びます。本学部が用意した講義は、高校生の学力で十分に理解できる内容となっていますので、わかりやすく大学の授業での学びを体験していただく機会としてご利用ください。

社会共創学部

講義番号	教員氏名	講義テーマ
1	社会共創学部 教員	社会共創入門 - 地域社会の未来を共に創る人材をめざそう！ -
2	岡本 直之 尾花 忠夫 徐 祝旗 山口 信夫	身近なビジネスの仕組み
3	岡本 隆 川口 和仁 曾我 巨由 橋 惠昭 樊 帆 岡村 伊織 谷本 貴之 折戸 洋子 崔 英靖 田窪 美葉	経済学っておもしろい！
4	後藤 理恵 斎藤 大樹	地域活性化に向けた新規養殖種開発～スマ、マガキガイ、アオリイカ～
6	清水 園子 竹内 久登	愛媛県の赤潮と漁場環境
7	竹ノ内 徳人	魚の経済学 ～魚が食卓にならぶまで～
8	内村 浩美	紙の機能と新たな紙製品開発の可能性 ～おもしろい紙を発明しよう！～
9	藪谷 智規	紙や小型装置を利用した分析・検査法
10	福垣内 暁	粘土の機能を知ろう！
11	伊藤 弘和	プラスチックは本当に悪者か？ ～木とプラスチックのハイブリッド～
12	深堀 秀史	環境をきれいにする紙 ～紙で水中や空気中の環境汚染物質を除去する～
13	秀野 晃大	バイオリファイナリー ～拡がる草、木の可能性～
14	高橋 学	ものづくり産業と暮らしの大変革期
15	山本 智規	ものづくりとメカトロニクス
16	小長谷 圭志	ものづくりと光技術～生物との関わりを例に～
17	松村 暢彦	地域活性化のための3つのアプローチ
18	二神 透	危機の時代を生きる - 愛媛県で起こりうる災害への備え -
19	バンダリ ネットラ プラカシュ	自然災害のしくみ ～知る・伝える・備える～
20	ルプレヒト クリストフ	人新世を生きる恐怖と希望
21	渡邊 敬逸	ぼつんと廃村 - 廃村から考える人口減少問題 -
22	徳岡 良則	文化的農業景観を守るには？一畑地境に残る境木（さかいぎ）を例に -
23	入江 賀子	気候変動対策事業をデザインする
24	李 賢映	地球温暖化と私たち
25	石川 慶一郎	人口減少のしくみ
26	笠松 浩樹	人口減少は悪なのか！？ - 農山漁村から未来の可能性を考えよう -
27	笠松 浩樹	地元で学ぶ「地元学」
28	竹島 久美子	植物の香りについて学んでみよう～柑橘～
29	佐藤 大規	身近な文化資源の見方・楽しみ方
30	山中 亮	地域を元気にするスポーツのちから
31	山本 直史	健康づくり施策について考えよう！ アクティブガイド2013を知っていますか？
32	淡野 寧彦	郷土食の過去・現在・未来を探る - 愛媛県の「いずみや」「丸ずし」を知っていますか？ -

No. 1

[講義テーマ] / 担当教員 社会共創学部 教員		講義時間 / 受講人数	
社会共創入門 —地域社会の未来を共に創る人材をめざそう！		講義時間	50分
		受講人数	制限なし
「社会共創学」は、地域社会が抱える課題を解決し、その持続可能な発展に貢献するための学問です。本講義では、地域社会の課題に対して、文理横断的なアプローチを推進することにより多面的な視点から事象を理解することの重要性について考えます。現実社会で起こる課題の解決のために必要な知見や技術とはどのようなものか、地域の特性を生かすとは何か、共創的課題解決力とはどのような能力か、講義を通して深めつつ、持続可能な地域社会の実現について考えてみましょう。			
□実施校において準備が必要なもの プロジェクター、スクリーン			

No. 2

産業マネジメント学科 ◎岡本 直之、尾花 忠夫、 [講義テーマ] / 担当教員 徐 祝旗、山口 信夫		講義時間 / 受講人数	
身近なビジネスの仕組み		講義時間	50分
		受講人数	制限なし
みなさんはどのような企業を知っていますか？トヨタ、Apple・・・巨大なグローバル企業ですね。でも実は私たちの身近にもすごい企業、すてきな企業はたくさんあります。そのような企業がどのような事業をやっているか、どのような特徴があるかを見ていくと、経営学・経済学から身近な地域・社会まで幅広いことが見えてきます。企業を知ることで社会を身近に感じてみませんか。			
□実施校において準備が必要なもの プロジェクター、スクリーン			

No. 3

産業マネジメント学科 ◎岡本 隆、川口 和仁、曾我 亘由、 [講義テーマ] / 担当教員 橘 恵昭、樊 帆、岡村 伊織		講義時間 / 受講人数	
経済学っておもしろい！		講義時間	50分
		受講人数	制限なし
経済学って縁遠いもの、難しいもの、お金儲けの学問などと勘違いしていませんか？経済学は、人間の行動を分析し、社会の「幸せ」を高める方法を考える、すごく身近な学問なのです。「定価9,800円のところ4,700円で販売」の広告がものすごくお得に思えてつい買ってしまおうのを分析する、これも経済学です。経済学のおもしろさに触れてみませんか。			
□実施校において準備が必要なもの プロジェクター、スクリーン			

No. 4

産業マネジメント学科 ◎谷本 貴之、折戸 洋子、 [講義テーマ] / 担当教員 崔 英靖、田窪 美葉		講義時間 / 受講人数	
身近な話題から経営学を知ろう！		講義時間	50分
		受講人数	制限なし
私たちのまわりにはたくさんの製品やサービスがあります。そのなかにはヒットしていたり、ロングセラーになっていたりするものもありますが、それは偶然そうだったのではなく、背景に企業の綿密な戦略があることが多いです。みなさんが知っている身近な話題から経営学のおもしろさを感じてみませんか。			
□実施校において準備が必要なもの プロジェクター、スクリーン			

No. 5

[講義テーマ] / 担当教員 産業イノベーション学科 ◎後藤 理恵、斎藤大樹		講義時間 / 受講人数	
地域の水産業活性化に向けた新規養殖種開発 ～スマ、マガキガイ、アオリイカ～		講義時間	50分
		受講人数	制限なし
南予水産研究センターでは、地域の要望の高い課題を地域と連携して研究開発に取り組んできています。小型マグロ類のスマは全身トロの美味しい魚で、愛媛県のブランド魚として知られており、2012年より養殖研究に取り組んでいます。また、天然の漁獲物の減少や小型化が懸念されているマガキガイやイカの王様であるアオリイカの種苗生産技術開発にも取り組んでいます。これらの最新の取り組みを紹介し、水産研究の面白さを知ってもらいたいと思います。			
□実施校において準備が必要なもの プロジェクター、スクリーン			

No. 6

[講義テーマ] / 担当教員 産業イノベーション学科 ◎清水 園子、竹内 久登		講義時間 / 受講人数	
愛媛県の赤潮と漁場環境		講義時間	50分
		受講人数	制限なし
愛媛県は日本でもトップクラスの養殖生産地であり、マダイや、真珠母貝、真珠の養殖生産量は全国1位、その他にもブリ類、クロマグロ、ヒオウギガイなど、多種多様な養殖が行われています。しかしながら、赤潮の発生が、養殖魚介類の大量死や品質劣化を引き起こし、持続的・安定的生産を妨げる大きなリスク要因になっています。魚介類の死亡や貝毒被害などをもたらす、さまざまな種類の赤潮についての詳しい解説と、赤潮対策に関する最新の取り組みについて紹介します。			
□実施校において準備が必要なもの プロジェクター、スクリーン			

No. 7

【講義テーマ】／担当教員 産業イノベーション学科 竹ノ内 徳人		講義時間／受講人数	
魚の経済学 ～魚が食卓にならぶまで～	講義時間	50分	
	受講人数	上限50人	
<p>わが国の水産業は、後継者不足・高齢化、環境変動による漁場環境や水産資源の悪化、漁獲量・漁獲高が大きく減少、輸入水産物の台頭、燃油や飼料の高騰など、内憂外患ともいえる厳しい時代を迎えています。ところが日本各地の水産の現場では、それらに対峙し、生き残りをかけたさまざまな取組みが見られるようになってきています。</p> <p>この授業では、わが国の水産業にかかわる生産から消費にいたるフードシステムの現状を理解してもらいます。また愛媛県の水産業を活性化しようという現地の取組みのうちに柑橘の香りがする「フルーツフィッシュ」や新養殖魚「スマ」などに焦点をあてて、その効果と展望について講話します。</p>			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン			

No. 8

【講義テーマ】／担当教員 産業イノベーション学科 内村 浩美		講義時間／受講人数	
紙の機能と新たな紙製品開発の可能性 ～おもしろい紙を発明しよう！～	講義時間	100分	
	受講人数	上限40人	
<p>身近な紙製品とその機能について、実験を交えながら講義します。</p> <p>具体的には、多様な紙製品について、サンプルを回覧しながら紹介し、それらの機能について概説します。その一例として、お札（日本銀行券）の機能と偽造防止技術についても紹介します。</p> <p>そして、新しい紙（こんな紙があったらいいなあ～）の開発について、実験を交えながら分かりやすく講義するとともに、大学の最先端研究についても紹介します。</p>			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン ※簡単な実験を行います。教室等の設備に応じて実験内容を検討しますので、教室について（水道設備の有無、火気の使用可など）ご相談させてください。			

No. 9

【講義テーマ】／担当教員 産業イノベーション学科 藪谷 智規		講義時間／受講人数	
紙や小型装置を利用した分析・検査法	講義時間	50分	
	受講人数	上限40人	
<p>紙は軽く、安価で、溶液を容易に流すことができる（毛細管現象）ため、簡易な分析・検査に適した素材です。感染症の爆発的な拡大（パンデミック）や広域な環境汚染などでは、被害を最小限にするために、「その場」で迅速に分析検査を行う必要があります。そのためには、取り扱いに優れ、持ち運びが可能な小型分析・検査装置が求められます。紙や小型装置を利用した分析・検査法の研究の現状や今後の展望について紹介します。</p>			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン			

No. 10

【講義テーマ】／担当教員 産業イノベーション学科 福垣内 暁		講義時間／受講人数	
粘土の機能を知ろう！	講義時間	50分	
	受講人数	上限50人	
<p>印刷のにじみを抑えたり、発色を高めるために紙の表面には、粘土と呼ばれる無機材料が塗布されます。粘土にも様々な種類が存在し、その中でも、機能性粘土の研究を行っています。粘土の多彩な機能を紹介いたします。</p>			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン			

No. 11

【講義テーマ】／担当教員 産業イノベーション学科 伊藤 弘和		講義時間／受講人数	
プラスチックは本当に悪者か？ ～木とプラスチックのハイブリッド～	講義時間	50分	
	受講人数	上限80人	
<p>プラスチック製品が無くなったら、私たちの生活は不便になると思いませんか？しかし、未来の地球を守るためには、石油からできているプラスチックの使用量を削減することも大事です。自動車では、石油資源であるガソリンの使用量を減らすためにハイブリッド車が普及しています。同じように、プラスチックも天然素材の木材とのハイブリッドであるウッドプラスチックという材料があります。今回は、このウッドプラスチックについて紹介します。</p>			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン			

No. 12

【講義テーマ】／担当教員 産業イノベーション学科 深堀 秀史		講義時間／受講人数	
環境をきれいにする紙 ～紙で水中や空気中の環境汚染物質を除去する～	講義時間	50分	
	受講人数	上限40人	
<p>皆さんの身の周りにどんな紙がありますか？従来、紙は「書く」「包む」「拭く」ために用いられていましたが、最近は、紙といろいろな材料と組み合わせる新しい機能を付与した紙「機能紙」の研究が行われており、環境浄化、エネルギー生産、物質合成などの分野で使用される紙も開発されています。</p> <p>一見、地味だけれども、発想次第で無限の可能性を秘めた次世代の「紙」を一緒に考えてみませんか？</p>			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン ※簡単な実験を行います。教室等の設備に応じて実験内容を検討しますので、教室について（水道設備の有無、火気の使用可など）ご相談させてください。			

No. 13

【講義テーマ】／担当教員 産業イノベーション学科 秀野 晃大	講義時間／受講人数	
バイオリファイナリー ～拡がる草、木の可能性～	講義時間	50分
	受講人数	上限80人
再生産可能で地球上に大量に存在する「バイオマス」およびバイオマスを主原料として燃料や化成品を生産する「バイオリファイナリー」について概説します。具体例として、草木から作る事が出来るセルロースナノファイバーやバイオエタノールに関する歴史、現状、生産技術等について紹介します。		
<input type="checkbox"/> 実施校において準備が必要なもの		
プロジェクター、スクリーン		

No. 14

【講義テーマ】／担当教員 産業イノベーション学科 高橋 学	講義時間／受講人数	
ものづくり産業と暮らしの大変革期	講義時間	50分
	受講人数	制限なし
18世紀後半にイギリスから起こった産業革命から工業社会、情報社会、そして超スマート社会へと変遷しようとする現代において、ものづくり産業がこれまでどのように関わり、将来どのように変わっていくのか、AIやIoTが急速に発達する現在において我々人間や社会、地域が豊かな生活をおくるにはどうなれば良いのかを皆さんと共に考えていきます。また地域のものづくり産業を発展に導く人材像についても考えていきます。		
<input type="checkbox"/> 実施校において準備が必要なもの		
プロジェクター、スクリーン		

No. 15

【講義テーマ】／担当教員 産業イノベーション学科 山本 智規	講義時間／受講人数	
ものづくりとメカトロニクス	講義時間	50分
	受講人数	制限なし
ものづくりに欠かせない要素であるメカトロニクスについて、実例を挙げて紹介します。また、これからのものづくりの場面でメカトロニクスやコンピュータ、ロボット技術などがどのように活かせるかを解説します。 また、社会共創学部の紹介と、これから必要とされるであろうものづくり人材について説明します。		
<input type="checkbox"/> 実施校において準備が必要なもの		
プロジェクター、スクリーン		

No. 16

【講義テーマ】／担当教員 産業イノベーション学科 小長谷 圭志	講義時間／受講人数	
ものづくりと光技術～生物との関わりを例に～	講義時間	50分
	受講人数	制限なし
電子デバイス、医療機器、宇宙航空などにおいて日本の光技術は大きく活躍しています。なぜ、日本の光技術は高いシェアをもっているのでしょうか？ 光学部品においては、高純度の材料合成から、寸法精度の高い加工、精度の高い研磨や膜生成などの複数の技術が必要です。研究現場においても、診断、創薬、人工光合成などにつながる面白い知見が見つかっています。最後には、私の研究分野である、農学における光技術についてお話しします。愛媛県内の企業が公表している光技術も話題に加えています。		
<input type="checkbox"/> 実施校において準備が必要なもの		
プロジェクター、スクリーン		

No. 17

【講義テーマ】／担当教員 環境デザイン学科 松村 暢彦	講義時間／受講人数	
地域活性化のための3つのアプローチ	講義時間	50分
	受講人数	制限なし
ひとり一人がより豊かに暮らしていくように地域を活性化するためにはどのような方法があるのでしょうか。ショッピングセンターのようなたくさんの人が集まる施設を作って、「まちを変えていく」方法は思いつくかもしれませんが。そのような方法は、ニーズに合致すれば大きな効果を発揮するので有効な方法です。それだけではなく、「私とまちの関わりを変える」「私たちとまちの関わり合いを変える」方法もあります。ここではそれら3つのアプローチの身近な例をあげながら解説します。		
<input type="checkbox"/> 実施校において準備が必要なもの		
プロジェクター、スクリーン		

No. 18

【講義テーマ】／担当教員 環境デザイン学科 二神 透	講義時間／受講人数	
危機の時代を生きる —愛媛県で起こりうる災害への備え—	講義時間	50分
	受講人数	制限なし
現在、日本列島は、ほぼ全域で地震の活動期に入っています。また、気候変動により、日本各地で豪雨災害が多発しています。私たちは、今、危機の時代を迎えています。特に、南海トラフの地震が巨大地震であれば、東日本大震災の10倍以上の犠牲者が想定されています。また、2018年の西日本豪雨災害では、愛媛県内でも甚大な被害が発生しました。愛媛県内で、今後起こりうる巨大地震や豪雨災害から命を守る備えについて考えます。		
<input type="checkbox"/> 実施校において準備が必要なもの		
プロジェクター、スクリーン		

No. 19

〔講義テーマ〕／担当教員 環境デザイン学科 バンダリ ネットラ プラカシュ		講義時間／受講人数	
自然災害のしくみ ～知る・伝える・備える～		講義時間	50分
		受講人数	制限なし
<p>近年降雨に伴う災害（土砂災害、洪水・浸水）が続発しており、比較的予測しやすい降雨量や降雨時間について事前を知ることができても事前避難が間に合わず、または避難できず甚大な被害に至ってしまうケースが増えている。また、比較的地震活動が少ないと言われている四国の地でも伊予灘地域や日向灘地域等を震源とする小規模地震も頻発している。もちろん、南海トラフ地震の発生確率も今後30年以内に80%以上となっている、いつ起きても珍しくない状況である。さらに、台風の時期になると、四国を上陸する台風も少なくない。このような自然災害の危機に囲まれている中、我々は少なくとも災害のしくみを知り、自分が知っていることを他人に伝え、地域住民全員が災害に備えることで被害を最小限に抑えることができる。本授業には、このような内容が含まれている。</p>			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン			

No. 20

〔講義テーマ〕／担当教員 環境デザイン学科 ルプレヒト クリストフ		講義時間／受講人数	
人新世を生きる恐怖と希望		講義時間	50分
		受講人数	制限なし
<p>人類が地球を破壊しつくす時代「人新世」に生きる恐怖。様々な災害をもたらす気候危機。生物種の絶滅危機。深海、南極、水道水中のプラスチックや多種の環境汚染。地球環境の深刻な状態、そして政府や大人の不十分な対応に絶望を感じている若者が世界中に急増しつつあります。私たちに明るい未来はあるのでしょうか？厳しい現状から目をそらさず危機を解説した上、なぜ世界でSDGsや持続可能性の研究が諦めないのか、そして「一人一人」だけでなく「私たち、みんなで」生きる価値のある未来を創れる希望を紹介します。</p>			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン			

No. 21

〔講義テーマ〕／担当教員 環境デザイン学科 渡邊 敬逸		講義時間／受講人数	
ぽつんと廃村 －廃村から考える人口減少問題－		講義時間	50分
		受講人数	制限なし
<p>現在、日本国内の人口動向は社会減に突入しており、農山村だけではなく、都市部においても人口減少が進んでいます。中でも特に人口減少が激しいのは、農山村の周辺に位置する条件不利地域です。こうした地域では、「ぽつんと1軒屋」の集落は珍しくなく、中には1軒屋どころか、全く人の住んでいない廃村がぽつぽつと発生していることも珍しくない状況になっています。本講義では日本の農山村を中心に発生している廃村現象を手掛かりに、その影響が我々の生活にどのように関わることについて考えます。</p>			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン			

No. 22

〔講義テーマ〕／担当教員 環境デザイン学科 徳岡 良則		講義時間／受講人数	
文化的農業景観を守るには？ 一畑地境界に残る境木（さかいぎ）を例に－		講義時間	50分
		受講人数	制限なし
<p>地域の生活や風土によって形作られる文化的景観は観光資源や地域らしさの源として価値に富んだものです。しかし地元の身近な農業景観の歴史については、評価があまり進んでいません。愛媛の肱川沿いの畑に残る境木（さかいぎ）は文化的農業景観を形作る植物利用の一例です。この境木について、全国の植物利用例を比較しながら文化的農業景観を守るためには何が大切なのか？について考えてみたいと思います。</p>			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン			

No. 23

〔講義テーマ〕／担当教員 環境デザイン学科 入江 賀子		講義時間／受講人数	
気候変動対策事業をデザインする		講義時間	50分
		受講人数	制限なし
<p>気候変動対策事業をデザインする方法を学びます。気候変動対策事業は、農山漁村地域で行われることも多いため、初めに、農山漁村地域の事業の具体例を学びます。また、気候変動対策事業をどのように評価しデザインするのか、経済学の知識を使って学びます。</p>			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン			

No. 24

〔講義テーマ〕／担当教員 環境デザイン学科 李 賢映		講義時間／受講人数	
地球温暖化と私たち		講義時間	50分
		受講人数	上限50人
<p>地球温暖化緩和に向けての国際社会の協力を妨げている要因は？我々の日常生活の中で地球温暖化を加速化させている意外なものとは？新しい温暖化緩和策とは？地球温暖化をグローバルそしてローカルの観点から見つめ直し、地域社会の市民として我々ができることを一緒に考えてみましょう。</p>			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン			

No. 25

【講義テーマ】／担当教員 地域資源マネジメント学科 石川 慶一郎		講義時間／受講人数	
人口減少のしくみ		講義時間	50分
		受講人数	制限なし
<p>こんにち様々な分野で枕詞のように言われる少子高齢化と人口減少。それらはなぜ、どのように生じたのでしょうか。日本の人口動態や人口移動のトレンドについて学び、この問いについて考えます。人口は単なる数値ですが、人間は意思を持って行動します。一人ひとりの意思を尊重しながら、持続可能な地域社会を実現することは可能でしょうか。すぐに答えは出せませんが、いずれにせよ、まずは実態を知ることが大切だと思います。</p>			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン			

No. 28

【講義テーマ】／担当教員 地域資源マネジメント学科 竹島 久美子		講義時間／受講人数	
植物の香りについて学んでみよう～柑橘～		講義時間	50分
		受講人数	制限なし
<p>農山漁村マネジメントコースの教員の竹島です。愛媛の代表的な農産物といえば、柑橘（みかん）ですね。皆さんは柑橘の香りをかぐとどんな気持ちになりますか？植物の持つ香りは植物が生きるために身につけたものですが、人間が合成して作ることは難しく、植物に対する効果だけでなく人間に対しても、実はすごい力を秘めています。一緒に柑橘の香りを楽しみながら、農産物の可能性について考えてみましょう。</p>			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン、スピーカー			

No. 26

【講義テーマ】／担当教員 地域資源マネジメント学科 笠松 浩樹		講義時間／受講人数	
人口減少は悪なのか！？ －農山漁村から未来の可能性を考えよう－		講義時間	50分
		受講人数	制限なし
<p>日本では人口減少が問題視されていますが、世界では依然として増え続けています。科学技術が進展する一方で、10年後には今ある仕事の半分がなくなるという予測も出始めました。高校生のみなさんが社会で活躍する頃はどのような世の中になっているのでしょうか。本講義では、人口減少を資源、経済、環境との関連性から肯定的にとらえ、地方や農山漁村に着目し、双方向型の授業の中で未来志向の生き方を考えます。一緒に新たな答えを探りましょう。</p>			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン			

No. 29

【講義テーマ】／担当教員 地域資源マネジメント学科 佐藤 大規		講義時間／受講人数	
文化資源の見方・楽しみ方、 そしてその活用とは？		講義時間	50分
		受講人数	制限なし
<p>「私が住んでいる地域には何もない…」、よくきく言葉ですが本当にそうでしょうか？身近すぎてあるのが当たり前なので、気づいていないだけかもしれません。誰にも気づかれることなく眠ったままになっているのかもしれない。本講義では、社寺建築や城郭建築、絵馬・石碑など身近な文化資源を題材にして、その簡単な（誰でもできる）見方・楽しみ方を紹介しつつ、地域の歴史や文化を探求すること、さらにその活用方法について考えてみたいと思います。</p>			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン			

No. 27

【講義テーマ】／担当教員 地域資源マネジメント学科 笠松 浩樹		講義時間／受講人数	
地元で学ぶ「地元学」		講義時間	50分
		受講人数	制限なし
<p>過疎・高齢化が進む農山漁村。「ここには何もない」、「街へ行ってもいい仕事に就け」と言われる時代は過ぎました。これからの未来は農山漁村にあります。何の変哲もない暮らしから、知恵や技を引き出してみると、素晴らしいことや凄いことがたくさんあります。それを実践する方法が「地元学」。学問ではなく、「地元で学ぶ」姿勢を指しています。本講義では、これまでに実践した「地元学」の事例を紹介し、地域が元気になった経緯を解説します。住民の心に寄り添うことから始まる地域づくりの極意を伝授します。</p>			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン、			

No. 30

【講義テーマ】／担当教員 地域資源マネジメント学科 山中 亮		講義時間／受講人数	
地域を元気にするスポーツのちから		講義時間	50分
		受講人数	制限なし
<p>オリンピックなどの世界的なスポーツイベントでは、ハイレベルなプレーが繰り広げられますが、プレーと同様に様々な感動も生まれます。その感動などによって人々はスポーツから大きな力をもらいます。そのスポーツの持つちから（特に地域を元気にするちから）について、東日本大震災の時復興の象徴となったフラダンスや国際的なスポーツイベントを題材に、地域を元気にするスポーツのちからやスポーツの本質に触れてみましょう。</p>			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン、スピーカー			

No. 31

【講義テーマ】／担当教員 地域資源マネジメント学科 山本 直史		講義時間／受講人数	
健康づくり施策について考えよう！ アクティブガイド2013を知っていますか？		講義時間	50分
		受講人数	制限なし
<p>体を動かすことは健康の維持増進に有効なのは言うまでもありません。しかしながら、定期的に運動を行う人の割合はここ10年増えていません。さらに、身体活動量の指標である1日の総歩数はどの世代も年々減少し続けています。このような現状を打破するために、国はどのような施策を実施しているのでしょうか？本講義では、2013年に発表されたアクティブガイド2013の解説を中心に、皆さんと一緒に国民全体の身体活動量をどうしたら増加できるのか考えます。</p>			
<input type="checkbox"/> 実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン			

No. 32

【講義テーマ】／担当教員 地域資源マネジメント学科 淡野 寧彦		講義時間／受講人数	
郷土食の過去・現在・未来を探る －愛媛県の「いずみや」「丸ずし」を知っていますか？－		講義時間	50分
		受講人数	制限なし
<p>多様な気候や地形のもとにある日本では、各地域の環境条件に影響を受けた特色ある料理、すなわち郷土食が生まれ、長く伝わってきました。しかし現代社会では、利便性の向上によって私たちの暮らしが豊かになる一方で、郷土食を食べる機会が少なくなり、その価値も見過ごされつつあります。 愛媛県の郷土食の一つである「いずみや」（「丸ずし」とも呼ばれる）も、同じような状況にあります。郷土食を単に昔からのものとして見るのではなく、現代的価値について再検討したり、どのようなかたちで未来に伝えていけばよいのか、考えてみましょう。</p>			
<input type="checkbox"/> 実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン			